



守山市内では年間を通じ、さまざまな花を楽しむことができます。春は桜、梅雨時にはハマヒルガオにアジサイ。初夏には近江妙蓮、盛夏にヒマワリと続き、秋にはコスモスが満開になります。そして年を越えたころ守山初春の風物詩、菜の花が見ごろを迎えます。

そんな花どころ守山の桜

といえば「笠原桜公園」の桜を思い浮かべる方も多い

■ 喜多の淡墨桜（守山市）

色の移り変わり愛でて



そんな守山市の桜について地元で愛されている少し珍しい品種の桜を紹介したいと思います。

一般的に「桜」と言われて想像する樹種は「ソメイヨシノ」だと思われていますが、

●笠原の桜＝守山市笠原町の笠原桜公園で
●喜多の淡墨桜＝守山市川田町喜多で



のではないのでしょうか。野洲川左岸堤防敷の新庄大橋付近に植えられた約400本のソメイヨシノが、一斉に咲き誇り、まるで桜のトンネルのようになります。また、美しさから「近江富士」とも形容される三上山とのコントラストも見事で、満開を迎えるころは家族連れを中心に多くの人でにぎわいます。

守山市川田町喜多地先に「淡墨桜（樹種・エドヒガナ）」という咲き始めと散り際に色が変わるといって珍らしい種類の桜が植えられています。

樹齢数百年とも言われるこの「喜多の淡墨桜」の木は、幾度も衰弱を繰り返してきました。しかし「樹齢1500年の淡墨桜」を擁する岐阜県根尾村（現本巣市）の淡墨桜保存会の助言や協力を経て復活。2005年の台風の影響で2本立ての1本が倒れてしまいましたが、現在は傍らに育っている2世の淡墨桜に加え、贈呈を受けた樹齢1500年の実生苗木6本を少し先の三角窪地で目にする

ことができず、本数こそ少なく、こぢんまりとした一画ではありますがその背景に思いを寄せ、観賞するのもまたよいのではないのでしょうか。

この樹種はソメイヨシノより少し早い3月中旬頃に開花を迎えます。咲き始めは淡い桃色、満開時は白、散り際には淡い墨色に変化する希少な桜です。写真ではなかなかこの淡くはかない色合いが伝わりにくいのので、開花中に数回実際に足を運んでいただき、ご自身の目で色の移り変わりを楽しんでいただきたいと思います。

（守山市観光物産協会・佐々木晃子）

【アクセス情報】「喜多の淡墨桜」へはJR守山駅から近江鉄道バス「喜多」下車徒歩3分。



これまでの「しが旅のススメ」はこちら



しが旅のススメ

